

アーカイバル容器とは長期間保存し活用していく資料をできるかぎり良い状態で維持するための「いれもの」です。

■ 当社の保存容器は大切な資料を劣化させません。

伝統的な保存容器である桐箱は優れた調湿機能をもっていますが、昔のように質の良いものを作ることが難しくなっています。また、普通の段ボール箱は再生材料を使っているために酸が発生しやすく、収納した資料を汚染します。当社のアーカイバル容器は、資料を劣化させる外気中の汚染物質をシャットアウトするのももちろん、資料そのものから発生する酸性ガスを吸収したり、湿度変化が資料に与えるショックを緩和する効果をもっています。

■ 最良の保存のために厳選した素材を使っています。

アーカイバル容器の主材料となる段ボールや厚紙は、純粋なケミカル・パルプを原料に、弱アルカリ(pH7.5~8.5)になるように調整しています。組み立てのための接着剤や部品も長期保存に適した材料を使用しています。また、アルカリに敏感な資料のための無酸・無アルカリ・無サイズのボードや、桐箱と同等の調湿機能をもつボードも開発され、さまざまなニーズにお応えできます。

■ 当社の製品は厳格なPAT試験をパスしました。

ISO(国際標準化機構)のPAT(Photographic Activity Test)は各種の材料が、酸や金属イオンに敏感な写真資料に与える影響を調べる試験です。この試験にパスすることは、写真以外の資料を保存する材料としても優れていることを意味します。当社の製品は各種の材料、組み合わせ(紙+接着剤など)でPAT試験をパスしました。



▲比較実験結果。密閉ガラスびんにそれぞれ普通の段ボール(左)とアーカイバルボード(右)を入れ、銀箔をつるして4か月放置。左は酸化水素により変色した銀箔、右は変化のない銀箔。



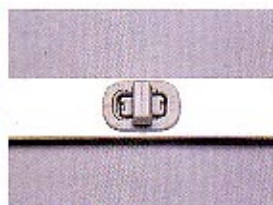
▲アーカイバルボード



▲ガス吸着性をもつ機能性ボード



▲不活性不織布テープ

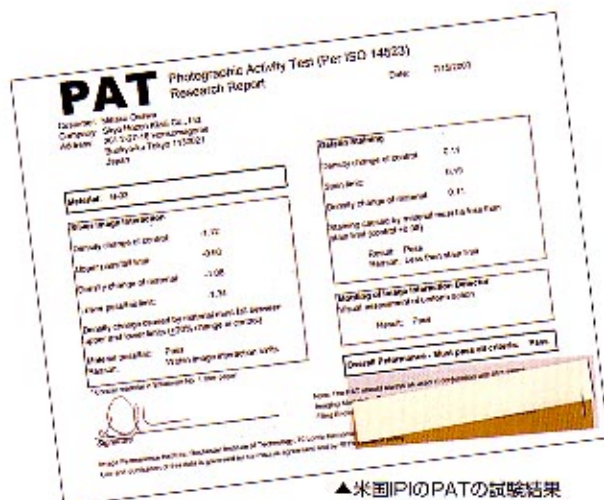


▲ワンタッチの留め具

アーカイバル容器の扱いについて

長期保存のためには保存環境も大切です。

資料の保存に画期的な効果をもたらすアーカイバル容器ですが、魔法の容器というわけではありません。高温多湿の中に放置すれば虫やカビが発生します。ですから資料を長期間、良い状態で保存するためにはその「いれもの」を保管する場所の温度・湿度などの環境を安定させることが必要です。伝統的な「目通し」「風通し」をおすすめします。



▲米国PIのPATの試験結果